

サウジアラビア（リヤド）の生活環境

年度末は企業・組織の人事異動が多い時期となるため、今回は駐在生活について触れてみたい。

サウジアラビアはイスラム教国家であり、日々の生活に宗教が深く浸透している。宗教上禁止されているアルコール、豚肉製品は、国内に流通しておらず（持ち込みも禁止）、1日5回あるお祈りの時間には、約30分間、お店やレストランが閉店となる。

内陸に位置するリヤドは、砂漠気候であり年間を通して乾燥している。7月、8月には気温が50度近くになることもあるが、1年中暑いイメージとは裏腹、冬は0度近くまで気温が下がることもある。日本のような春夏秋冬の季節はなく、大まかに“夏夏夏冬”といった気候となる。

サウジアラビア在留邦人数（出典：外務省）

在留邦人数は、2019年12月時点で947名。駐在地域はリヤド、ジエッダ、東部州に3分されており、各地域300名程度と推測される。他国比較が可能な2018年10月時点の在留邦人数は、世界第49位、中東地域ではUAE、トルコ、イスラエルに次いで第4位となる。なお、進出日系企業拠点数は114拠点。

サウジ特有のコンパウンドと呼ばれる外国人居住区

駐在員の多くは、コンパウンドと呼ばれる複合型の居住施設に住んでいる。コンパウンドは壁に囲まれ、セキュリティが確保されている他、レストランやミニスーパー、プール・ジム等が設置されており、コンパウンドによっては、インターナショナルスクールや保育園を敷地内に有している。コンパウンド内は、女性の肌を隠すアバヤの着用が不要であり（コンパウンド外も義務ではないが、慣習的に着用が推奨される）、お祈り時間の閉店がない等、外国人にとっては生活しやすい環境となっている。



コンパウンドの様子
(日サビジョンオフィス撮影)

コンパウンドにも見られる改革の動き

2020年に入ってから、このコンパウンドにも改革の風が吹いている。今までは文字通り2重、3重の壁に囲まれ物々しい外見であったが、より開放的な雰囲気醸成を目指すサウジ政府の意向により、2重、3重となる壁の撤去が進んでいる。政府主導で住環境の雰囲気にまで踏み込む動きは、まさに“活気ある社会”をテーマの1つとするVision 2030の改革の動きと言える。

サウジでの駐在生活は、宗教上の不慣れ（アルコール、豚肉製品の制限やお祈り時間）や、未整備な交通インフラ、猛暑となる気候等、難しい面があるのは事実である。一方、住んでこそわかるサウジ人の温かさや奥深いイスラム文化は、この国の魅力である。“住めば都”であるかは各人の意見によるが、難しい面も含め、駐在する面白さのある国ではないかと思う。（2020年3月）

お問合せ先

日・サウジ・ビジョンオフィス・リヤド

Address: 5th Floor, Council of Saudi Chamber Builg, Riyadh 11614

Tel: +966-11-219-9155 E-mail: infovo@sj-visionoffice.jetro.go.jp

Website: <https://www.jetro.go.jp/sj-visionoffice/>